

[果樹の新品種育成および導入新品種の特性評価]
東京都におけるカキの新登録品種特性

神 雅子・矢沢宏太・菊池知古^a・窪田洋二^b
(園芸部)^a現八丈島園芸技術センター^b現農業振興課

【要 約】新品種であるカキ‘早秋，貴秋’は，それぞれ一定の優良形質が認められるが品質または外観上の問題点が大きく，都内においての普及性は低い。‘甘秋’は食味が良いものの果実重が小さいので，更なる検討が必要である。

【目 的】

平成12年から15年度までに(独)果樹研究所で命名登録された完全甘ガキ3品種(表1)について，生態的特性と果実品質の特徴を明らかにする。

【方 法】

カキは平成8年に場内灰色低地土圃場において実生台木に高接ぎを行い，慣行栽培を行った。他県の情報として，群馬県，千葉県，埼玉県のデータを用いた。調査は，(独)果樹研究所「果樹系統適応性検定試験方法」に準じて行った。

【成果の概要】

- 1) 各品種の収穫期は，‘早秋’で10月上旬，‘甘秋，貴秋’で10月中旬となった(表2)。
- 2) 果皮色について，‘早秋’は試験全期間を通じてカラーチャート値が6以上であった。関東他県においての平均値は6.2であった(図1，2)。「甘秋」は，年次によってはカラーチャート値が6以上となったが，平均すると5.2となり，関東における値も6以下となった(図1，2)。「貴秋」の果皮色は平均して6前後であり(図2)，この傾向は関東においても同様であった(データ略)。
- 3) 果実重について，‘早秋’は試験当初200g以下であったが，樹の成長と共に大きくなった(図3)。「甘秋」は試験全期間を通じて200gに達する事はなかったが(図3)，関東他県では250g以上となる場合もあり(データ略)，平均で230gであった(図4)。「貴秋」は東京でも関東他県においても平均で250gより大きくなった(図4)。
- 4) 糖度について，‘早秋’は試験全期間を通じて16度以下となり(図5)，関東他県においても平均で15.2であった(図6)。「甘秋」は年次によって20度近くまで高くなり，平均で17.6度であった。関東他県においても平均で17.2度であった(図5，6)。「貴秋」は試験期間の平均で15.7度，関東他県においては14.8度となった(図6)。
- 5) 以上の結果より，‘早秋’は10月上旬に収穫が可能であり，着色の良い品種であるといえるが低糖度で食味上問題がある。「甘秋」は果実重が小さいものの，高糖度であり食味の良い品種であるといえる。また，果実重については他県では250g以上となる県もあり更なる検討が必要であると思われる。「貴秋」は果実重が大きい，低糖度で肉質が粗く食味上問題のある品種であるといえる。

表1 各品種の来歴の概要

品種名	育種過程	系適試験系統名
‘早秋’	1988, 交雑実生 伊豆×109-27	1996, 第5回 安芸津13号
‘甘秋’	1986, 交雑実生 新秋×〔富有×興津16号(晩御所×花御所)〕	1996, 第5回 安芸津14号
‘貴秋’	1985, 交雑実生 伊豆×安芸津5号(富有×興津16号)	1996, 第5回 安芸津15号

表2 各品種の収穫期(月・日)

品種名	年次						平均値
	1998	1999	2000	2001	2002	2003	
‘早秋’	9.28	10.8	10.10	9.28	9.30	9.29	10.2
‘甘秋’	10.4	10.10	10.27	10.12	10.25	10.17	10.15
‘貴秋’	10.3	10.21	10.23	10.16	11.5	10.22	10.20
‘松本早生富有’	11.2	11.11	10.23	10.12	11.11	11.5	10.31

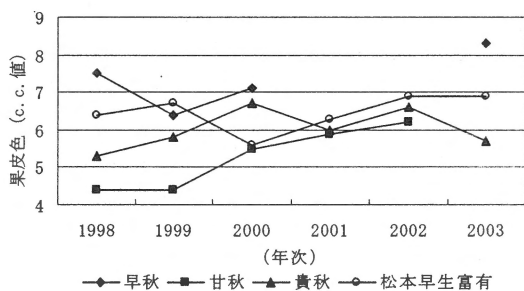


図1 各品種の果皮色の年次変動

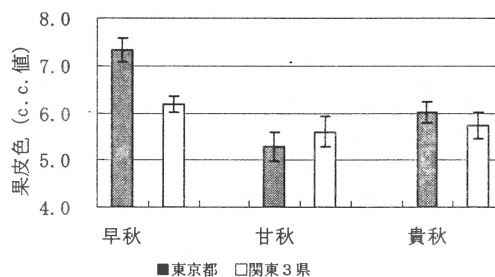


図2 関東3県との果皮色の比較

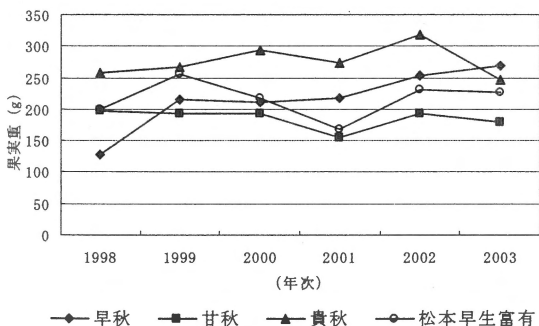


図3 各品種の果実重の年次変動

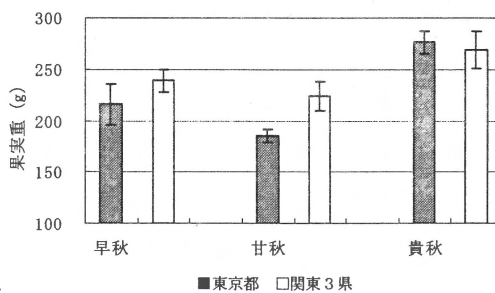


図4 関東3県との果実重の比較

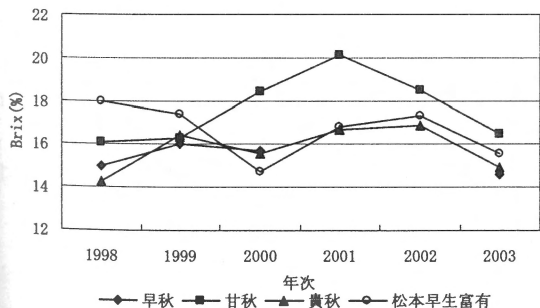


図5 各品種の糖度の年次変動

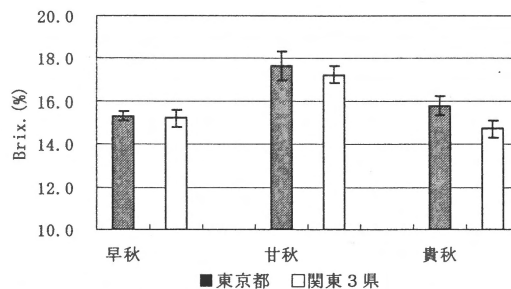


図6 関東3県との糖度の比較